

2022年度 第3回運営委員会議事録

- 日 時 : 2022年7月12日(火) 14:00~16:00
- 場 所 : サプリ村野 環境保全研修室
- 出席者 : 井上、丸井、末岡、赤井、市山、阪口、重村(枚方市)、豊高、藤原、
- 欠席者 : 宮村、
- 議 長 : 藤原 ■議事録作成 : 事務局
- 配布資料 : ・事務局報告 6-7月
 - ・2022年度 温暖化対策事業推進チーム 第3回ミーティング 議事録
 - ・環境教育部会 7月度定例会報告
 - ・令和4年度 第3回公共交通部会 議事要旨
 - ・自然エネルギー部会(令和4年度 第1回議事概要)

1. 報告事項

① 事務局報告

- ・理事長と一緒に協賛企業訪問を行っている。新規に2件、獲得した。
- ・会員期首より1名増
他議事録通り

② プロジェクトチーム・部会報告

◆地球温暖化防止対策推進チーム報告

提出されている議事録は前月分で、今月は 昨日、ミーティングを開催した。

- ・10日に五六市で「プラごみダイエット実践」のシール貼り調査を行った。1時間弱で100名以上の方に協力いただいた。これにより、市民の現状の行動傾向がよくわかった。
- ・自然エネルギー部会と共催でシンポジウムの開催を企画している。

<主な質問・意見>

- ・五六市の調査ではどういう傾向があったのか?

⇒プラごみの環境問題への関心は高く、マイバック、マイボトル、分別などはほぼ実践されている。「いいえ」が多かったのは、「個包装のものを選択している」という項目。皆さんが迷われたのは、「ペットボトルを買わない」の項目で、時々買う人が多くどちらに貼るか迷われ、線上に貼られた方もおられた。

- ・自分たちはちゃんとしているのに何故問題が起こるのか不思議に感じておられる方も多かった。

- ・ビラを配るだけより、協力していただける方が多かった。

- ・五六市は人が多いのか?

⇒人は多くにぎわっていた。子ども連れの方も多く、家族で協力いただいた。

- ・線上のグレーゾーンの方がおられるが、「どちらともいえない」という中間枠を設ける予定はあるか?

⇒設けるとそこに貼る人が多くなり傾向がつかめなくなるので設けない方がいいと思っている。

- ・集計はするのか。集計するにはマス目があった方がいいのではないか。

⇒集計はする。今回マス目を作ろうと思ったが時間切れで用意できなかったが、参加者はマスがない方が貼りやすいそうであった。今後、NPO フェスタ、外大祭、ごみ減量フェアにて引き続き実施し、最終集計結果を来年2月のエコフォーラムにて報告する予定である。

◆環境教育部会

- ・6月20日に今年度からの新メニュー「校庭からの樹木を通して緑化の大切さを知ろう」の出前授業を行った。また、部会内で感想を出し合い課題などを検討した。
- ・前回のミーティングの議題となった環境出前授業実施時間については、希望を学校側に伝えている。また午前中授業の場合サブリでお弁当を注文し食べながら反省会を行い好評であった。
- ・出前授業実施一覧は議事録の通り。6月に3件実施し、7月は2校で実施予定。9月以降9件のオファーが入っている。
- ・月刊アゴラに環境出前授業の活動紹介記事を掲載して頂ける様、交渉している（後日無理ということが判明）
- ・さだ西小学校エコクラブの後期のメニューを検討中。
- ・くらわんか塾について、前回運営委員会で話された内容を報告し部会員に意見を求めた。出された意見は部会議事録に記す通り。
- ・部会員拡大についての話も出て、チラシにQRコードを掲載することやHPの活用、閲覧分析を求める意見がだされた。

<主な意見>

- ・くらわんか塾を今行っている環境講座の総称とするというのはどういうことか？
⇒事務局で開催しているティールームなどは環境全般の講座なのでそれをくらわんか塾とすればいいのではないかという意見であった。
- ・当法人の環境講座は、①環境にあまり関心のない方向けのスターター講座（環境ミニ講座と環境ティールーム）、②担い手養成講座のくらわんか塾、③自然エネルギー普及啓発のための自然エネルギー学校、の3本立てとすることを数年前の運営委員会で決定した。くらわんか塾とティールームは立ち位置も主旨も異なる。
- ・くらわんか塾は、教育部会からやめるという話があったが、補助金申請時に「くらわんか塾を実施せず」が反映できなかったため、今年度は開催しなければならない。市の担当課を相談したところ、内容が変わってもいいということであったので、今年度は事務局が引き受けることとなり、一般的な環境講座として開催してはどうかという話を前回は行った。
※くらわんか塾については、協議事項の方で引き続き協議することとなった。

- ・会員獲得のためには、もっとマーケティングやデータを重視すべきである。HPのページごとの閲覧数などはわかるのか？
⇒ページごと、日毎、年間、月間などもわかる。
- ・分析して報告してほしい。
⇒直接生データを見て頂いた方がいいと思う。
- ・マーケティングによる人集めに期待がもてるとはいいがたい。
- ・学校を退職された先生など経験のある方にもっと入ってほしい。
- ・そういう方に声をかけてもほぼ断られる。一方、講師にはなっている。

- ・講師とボランティアは全く違う。熱い思いがないとボランティアはできない。

◆公共交通部会

- ・交通タウンマップを広報に挟み込んで全戸に配布するという話が出ていたが、費用が高額のため今年度は見送る。
- ・バスバックヤードツアーを8月20日、21日の2日間、午前午後の2回で、各30名×4回実施する。7月1日から申し込みし15分で定員一杯となった。新たな試みとして枚方市HPに専用フォームを設けそこからのみの受付としたのだが、システムの1カ所にミスがあり、バスを増発しなければならないようである。費用は当法人持ち、1台5万円である。
- ・これに関し、報告や対応の相談がなく大変困っている。
- ・スタンプラリーは、昨年同様の形で開催する。これについても、担当課が相談なく動かれるので困っている。

<主な質問・意見>

- ・バスバックヤードツアーの主催はどこなのか？
⇒枚方市と当団体との共催である。費用は当法人負担である。事業計画では、「夏休み期間の作品募集」としていたが、それと同等の費用で開催できるということで、バスバックヤードツアーに計画を変更した。
- ・いろいろ課題があるようだが、市民の方は楽しみにされているのでイベントはしっかり実行してほしい。終了後、連携についての課題を整理し、今後に向けての改善に活かしてほしい。

◆自然エネルギー部会

- ・9月にシンポジウムを温暖化チームと共催で開催予定。温暖化の影響を直接強く感じておられるだろう農業従事者と漁業従事者の方を招いて生の話を聞く。サプリで開催。ZOOM併用で開催する。
- ・10月には、バス見学会を開催予定。枚方ソラパと滋賀県比良山のマイクロ水力発電を見学に行く。
- ・自然エネルギーの重要性と意識を高めるという目的をはっきりもって進めていく。

<主な質問・意見>

- ・講座のねらいは何か。
⇒身近に感じてもらうこと。
- ・見学会は実際に行くのか、装置をもってくるのか、どういう形で開催するのか？
⇒実際に滋賀の現地に行く
- ・枚方市が最高気温となったなどと言われるが、自分の家の周囲はもっと暑いと思う。計測はどこで行われているのか？
⇒学校の敷地を借りている。周囲が土なので、アスファルトの住宅街よりは温度が低い。
- ・枚方市の環境白書によると、窒素化合物の濃度は各地点で計測されているが、CO₂濃度の計測はしていないのか？
⇒CO₂濃度は、局所的な違いはないので計測していない。
- ・環境白書のデータをみていくと、昔より季節が2週間早くなっていると感じるがあまり実感が無い。

⇒そのあたりの事は農業や漁業の方が一番敏感に感じておられると思うので、シンポジウムでその方たちの話を聞くことにした。

・枚方市のいきものの変化にも興味がある。

⇒枚方いきもの調査会が毎年詳細な調査報告書をまとめておられる。一部 500 円で販売している。ぜひご活用いただきたい。又、年に一度大規模一斉調査もされている。

2. 協議事項

① 会員交流会の振り返り

7月10日（日）第1回会員交流会を開催した。残念ながら、参加者が少なかったが、日頃と違った一面を見ることが出来、大変楽しかった。ボウリング大会は8名、その後の交流会は7名であった。参加者が少なかった要因としては、急な開催であり日頃活動されていない方に直接声をかけることができなかったからではないかと考えている。

<主な意見>

- ・参加者が少なかった要因は、きちんと分析が必要だと思う。ロコミというよりは、1000円払うメリットのPR不足ではないか。
- ・総会で他の部会の方を全然知らないとおっしゃった方が参加されなかったのはなぜか？
- ・日頃活動されていない会員さんとの交流という意味ではなかったのではないか。
- ・部会同士の交流がないということであれば、合同部会を開催し、お互いの活動や情報交換し相互協力できるような話の場を設けるのがいいのではないか。
- ・部会交流会は賛成。ボウリング大会ということで、足腰に自信の無い方や、普段全然ボウリングをされていない方は参加しにくかったのではないか。
- ・五六市や外大祭、エコフォーラムなどネットワーク会議全体で活動する事業もあり、一緒に活動する中で交流が深まるのでぜひ参加していただきたい。イベントへのブース出展も悪くはないが、校区のイベントへ参加することも検討してはどうか。
- ・そういう場合の問題点は、全員に呼び掛けても決まった方しか来られないことである。
- ・会費だけ納められている方が活動に参加されるきっかけとなればいい。
- ・それぞれの事情や考えがあるのだから、「みんな出てきて」という考えに捉われないほうがよいのではないか。
- ・会員へのアンケートを実施してはどうか。

<結論>

会員が当団体に対して何を望んでいるのか、会員であることについての想い等についてのアンケート調査を行う。

② くらわんか塾について

前回議論した続きで、今年度のくらわんか塾をどうするか、また、次年度以降継続していくか否かの2点、9月中には決めなければならない。

<主な意見>

- ・今年は全体に関わる環境講演会としてはどうか。
- ・参加すれば何か資格や肩書がもらえるというメリットがあるものがよい。
- ・例えば環境リーダーのような資格をつけるとして、それが魅力となるのか。

- ・それは、最初に資格を得た人の活躍による。その人が活躍すれば後に続きたい人が来る。
- ・値打ちのあるもの。枚方市のお墨付きがもらえるとか。
- ・権威づけた講座としてエコ検定をとるための エコ検定チャレンジ講座とかはどうか。
- ・講座を受けた人は初年度の会費を無料にするなどの特典を付ける。
- ・資格取得講座は、受験して終わりとなる事が多い。映画会なども見て終わりとなるような感じがするが、やはり心に残るものがあるのではないか。一人でも多くの方に環境に関心をもってもらいたいというのが第一義である。
- ・担い手講座としてのくらわんか塾をやめるということはなかったのか？環境教育部会が担当する事だけをやめたのか？
 - ⇒環境教育部会が行う「出前授業担い手養成講座」としてのくらわんか塾をやめるということであり、その結論を受けて「くらわんか塾をどうするか」という論議をしていただきたい。
- ・法人としては、やった方がいいと考えているのか？
 - ⇒「くらわんか塾」という呼称が一定定着していると思うので、ネットワーク会議の全体事業としての市民への環境啓発講座としてやっていければいいと思う。
- ・くらわんか塾を継続的に開催するなら、目的をはっきりさせる必要がある。市民への環境啓発か、担い手養成か、会員獲得か。
- ・市としての要望ということではないが、環境に関心のない人にどう関心をもってもらおうかということや、講座の参加者がインフルエンサーのように影響力をもって情報発信する人になってくれたらいいなどは思っている。

<結論>

8月の運営委員会で集中議論を行う。

※次回運営委員会・・・8月 25日(木) 13:30~15:00